

あとがき

本校では別頁にあるように、来年度完全実施の「特別の教科 道徳」を見据え、研究を行ってきました。「特別の教科」になった背景や目指すもの、授業実践、教育課程編成等、「自ら考え、判断できる児童の育成を目指して」を研究主題とし、先生方自身の学びも含め進めてきました。年度当初は「これまでの道徳とはどう違うのか?」「実際の授業はどのように展開すれば良いのか?」等、疑問だらけのスタートだったと思いますが、指導主事招聘による研究会や保護者に対する全学級の道徳授業参観等を通す中で、それらの疑問も徐々に明らかになってきたのではないかと思います。

また、本年度の研究の成果や課題も別頁にあります。今後も常に念頭に置いて実践していかなければならないもの、それは「考え、議論する道徳」、そして「道徳的な課題を一人一人の児童が自分自身の問題と捉え、向き合う姿」を創造していくことだと考えます。人の心はきれいごとでは片付けられない様々な要素を含んでいるものです。上辺だけの授業実践に止まらず、子供たち一人一人の心に訴えかけ、真剣に考えさせることができる授業を、私を含め、一人一人が意識していきたいと思えます。

さらに、本校児童の良さとは何か?足りない部分は何か?を明確につかみ、良さは伸ばし、足りない部分は補っていくという、より現実的な実践も必要だと考えます。常に目の前にいる子供たちをしっかりと見つめ、P(計画を立て)→D(実践し)→C(評価し)→A(改善する)を行い、同じことを同じように繰り返すことがないように心がけていきたいと思えます。

終わりに、本校の研究に対し、熱心にご指導いただいた甲府市並びに山梨県教育委員会の先生方、関係各位の皆様には厚く御礼申し上げます。あとがきといたします。

教 頭 小山田 貴一